

『自然環境・野生動物保護』に近い仕事がしたいと思い、高校へ進学したけれど、体調不良が続くにつれて夢をみることもなくなり、進路を決めることが嫌でたまらなかつた。どうでも良いと気持ちが悪んだ毎日、私は太鼓に出逢い、この環境に居たいと思った。

いつも支えられてばかりで何もできなくて、何かしたいと思うのだけれど、力に付れない。そんな私に唯一、残されていて人のためにできることはマッサージュやテーピングである。

中学の頃には、休み時間中にマッサージュをしたり、高校では部員がよくけがをして体を痛めていたので図書館で整体に関する本をよく読んでいた。人のしくみが面白いと思う。

誰かの為に自分の時間を割くことは、今では自分自身を振り返るまで、かけと、知識を与えられたようなものだ。それゆえ、今こうして、見失っていた、やりたいことがわか、たのだと思う。

私は、太鼓を通して得た環境の中で、もっと深い所でつなば、ていたいと思った。やはり支えられる側ではあるけれど、いつかは逆に支えて力になりたい、その人達の笑顔を守れるようにしたい。頼られることは、とても大変であり、何より素敵なことだと思う。

必ず人につまとう体調不良。自分自身が良くなることも大切であるけれど、それ以上に、大切だと思える暖かさを失うことの方が悲しいから。私は、私を支えてくれている人達の苦しんだり辛そうな顔を見たくないから、や、と見つけた私に出来ること。自分の好きな分野で、人のために何かができること。そして、笑顔でいてくれること。私は大切な人達を支える側になりたい。いつまでも笑顔でい

て欲しいと思います、願うから。

夢というには小さくておれた考えかもしね
はいけれど、支えたい。それが私の夢である。

そして、その最初の大きほ一歩ほ、中医学
を学ぶこと踏み出していけるのではなにか
と考え、思う。